

令和 8 年度第 1 回さぬき市総合計画審議会 会議結果

- 1 会議日時 令和 8 年 6 月 1 日 (月) 10:00 ～ 11:15
- 2 会議場所 さぬき市役所本庁 3 階 302 会議室
- 3 出席者 [委員] 長山委員 (会長)、三井委員 (副会長)、井上委員、
船井委員、大森委員、川田委員、芳竹委員、米田委員
[事務局] 向井審議監、総務部 多田 (千) 部長、
政策課 多田 (和) 課長、蓮井課長補佐、橋本係長
[委託事業者] (株) ぎょうせい
[傍聴人] 1 人
- 4 議題 (1) 関係団体調査結果について
(2) まちづくりワークショップの実施について
(3) 基本構想 序章 (案) について
(4) 今後の策定スケジュールについて
- 5 資料 資料 1 さぬき市 まちづくりの推進に関する関係団体調査 報告書
資料 2 市民・中学生合同まちづくりワークショップ実施要領 (案)
資料 3 第 3 次さぬき市総合計画 基本構想 序章 (案)
資料 4 2026 (令和 8) 年度 第 3 次さぬき市総合計画策定スケジュール
資料 5 第 3 期 さぬき市 まち・ひと・しごと 創成総合戦略 概要版
次第、委員名簿

6 会議要旨

発言者	意見概要等
事務局	開会 (10:00)
事務局	会議の原則公開について、ご了承願いたいと思いますがいかがでしょうか。 本日は傍聴者が 1 名いますので、入室をお願いします。 なお、会議中、傍聴の希望があった場合は、随時入室を許可することとします。
会長	挨拶 議事 (1) 関係団体調査結果について、事務局から説明願いたい。
事務局	<配付資料確認>
(株) ぎょうせい 担当者	<資料 1 説明>
会長	質問や意見等あれば、伺いたい。

	おおむね想定された回答が多かったが、意外だったのは、さぬき市にフリースクールがあったことだ。高松市の規模ならあると思うが、さぬき市の規模で不登校の子どもが通う施設があることだ。 不登校の理由としては、小学校が単級学校で1クラスしかなく、中学校でも2クラスくらいしかないこともある。小学校で、同じ学年で合わない子がいてもどうしようもなく、一緒にいるしか方法がない。担任もおそらく1人なので、先生と合わなくてもどうしようもない。中学校でも2クラスしかないと、似たような状況が起きるが、どうしようもない。もちろん、不登校が増えている理由は様々だと思うが、気の合わない子と顔を合わせないようにすることができないのだと思い、いろいろと考えさせられた。 ほかの意見は、なるほどそういう意見もあると思うのが多かったように思う。
委員	特にない。
会長	人口減少を食い止めるような方策にぜひ取り組んでほしいというのが、一番多かったと思う。当然、この計画にも取り入れると思うが、なかなか困難な取組だと思う。
事務局	議事（2）まちづくりワークショップの実施について、事務局から説明願いたい。
	<資料2説明>
会長	中学生を含む市民に集ってもらい、ワークショップを開きたいということだ。開催日は中学校の行事予定等に配慮して、平日になっている。
委員	午後1時半開始で、何時くらいまで行うのか。
事務局	3時間程度を予定していますが、中学校からは「早目にしてほしい」とのご要望を受けています。
会長	中学生は全員でなく選抜で、この時間だけ抜けてもらう形か。
事務局	選抜です。 この時期は夏休み前の懇談の時期に入るので、授業がなく、先生も就業時間内に対応できるので、平日の方が有り難いとのことでした。
会長	少なくとも、5時前には終わるということになる。

委員	市の職員や中学生、社会人が入って一つのグループを作るのか、それとも中学生は中学生のみのグループなど、別々のイメージか。
(株) ぎょうせい 担当者	前回もそうでしたが、中学生だけでグループを作ります。中学生が社会人等のグループに入ってしまうと、飲み込まれてしまうからです。中学生だけで行くと、違うアイデアが出てきて、効果があったと感じました。
委員	中学生と大人を分けたらメリットがあるとのことだった。中学生で話し合った内容を大人が共有できる場はあるか。
(株) ぎょうせい 担当者	最後に 3 分から 5 分間、グループ発表の場があり、自分たちの気持ちを話します。前回、まとめたことを中学生が話したとき、大人たちから「ほお」「いいね」という声を聞きました。また、ワークショップ後に結果をまとめるので、ご覧いただきたいと思います。
会長	ほかにあれば伺いたい。
委員	ファシリテーターは、何名かいるのか。
(株) ぎょうせい 担当者	前回同様、メインファシリテーターは私が務めます。サブとして、弊社の研究員等が各テーブルを回れるように配置しますが、1 テーブルに 1 人が付くわけではありません。そうすると、誘導される可能性があるからです。メインファシリテーターが全員の意見をまとめられるようにし、漏れがないよう、サブファシリテーターが回るという形になります。
会長	ほかにあれば、伺いたい。 続いて、議事（3）基本構想 序章（案）について、事務局から説明願いたい。
事務局	<資料 3 説明>
会長	意見や質問等があれば、伺いたい。
副会長	6 ページ【3】地域コミュニティの再構築について、求められていることは分かるが、具体的な方向性や手立てについては、これから考えるということか。 三井自治会は 157 世帯で、75 歳以上が 36 パーセント、70 歳以上が 49 パーセントと高齢者が多い。しかし、第 49 回総会で自治会の加入率は 100 パーセントだと聞いた。再構築ということで、自治会はいろいろとしているが、方向性ができたら教えてもらいたい。

(株) ぎょうせい 担当者	11 ページに「特に 20～24 歳では女性の転出超過数が大きくなっています。」とある。こういう事態になっているのは、どういう背景、原因があるのか。 ほかの市町村も同じ傾向です。多分首都圏へ行く、中心部へ行くという流れに歯止めが利いていない状況だといえるかと思います。 11 ページの下グラフは、令和 6 年という単年度を切り取って表記しています。本来は令和 4 年、5 年、またそれ以前はどう推移しているか、時系列で見ないといけないと思いますが、ここでは、令和 6 年は女性の 20 歳から 24 歳の転出者が男性を上回っているという状況を表しています。 男性も女性もこの年代がさぬき市から出ていくということは、婚姻等もあるかもしれませんが、大学を卒業して就職というのが最も大きな要因ではないかと思われます。では、なぜ出ていくかというと、若い人にとって魅力のある地場企業がさぬき市にあるかどうかだと思います。そういったことも検証していかないといけないというのがあるかと思います。
委員	この年代は大学卒業年次で、住民票をさぬき市に移した徳島文理大学や香川県立保健医療大学の学生たちの転出の影響があると思うが、そういう人の調査はしているか。
(株) ぎょうせい 担当者	個人情報に基づいた統計は出されていないと思います。難しいと思います。 その土地ならではの傾向もあると思うので、逆にお聞きしたいと思います。
委員	転出がある程度想定される人は、仕方がないと思う。さぬき市が地元で転出する人がどのくらいいるかは、公表しないにしても調べられると思う。
会長	今年の 4 月、徳島文理大学が完全に移転していると思うので、今年の 10 月 1 日推計の男女比でやると、大学の移転の影響が出ると思う。18 歳で入って、22 歳で出るとして、15～19 歳を見ると、転出超過となっている。地方都市に大学を作ると、よそから来るので、18 歳の人口流出は止められるが、22 歳でまとめて返さないといけなくなる。それでも、若い人が 4 年間いてくれるだけでも違う。4 年間でも、県内や市内に留まってほしい、1 年でも先送りしてほしいというので、地方の大学は有意義だ。 学部構成によるところもある。香川薬学部があり、女性が多かったと思うので、その影響もあったのではないかな。いずれにせよ、移転したので、市内に大学がない状況での人口動態が出てくる。その場合、入ってくる人が減るので、18 歳の転出が大きく、22 歳の転出が

委員	少なくなると思う。跡地利用も含めて、徳島文理大学の影響は大きい。地方交付税等もあり、頭が痛い。 ほかにあれば、伺いたい。 行政も皆もそうだが、受け皿をしっかりと作ってもらうことに加え、両親の理解度も変えてもらわないといけない。少子化なので、大企業、安定した会社子どもを行かせたい、地元の小さなところでは働かせたくないという気持ちが両親には強いので、そこを切り替えてもらう必要もある。 9ページの文章に「老年人口も今後は減少に転じるものと推計されています。」とある。グラフを見ると、老年人口が下がっているが、総人口も下がっており、老年人口の占める割合は高いまま推移している、ちょっと理解しがたい。数値的には減っても、比率的には、平成12年と比べて高くなっている。文章がこのままだとどうかと思った。
(株)ぎょうせい 担当者	ここは、実数について書いているので、文章自体は間違いではないのですが、ご意見のように、老年人口は一定の割合をキープします。別立てで文章を追加して記載するか、入れ替えるか検討したいと思います。
委員	これだと「よくなっている、皆さんどうでしょう」というふうに誘導しかねない。
(株)ぎょうせい 担当者	事務局と検討したいと思います。
委員	先週、民生委員の総会の研修会で出された数字を紹介したい。昨年時点で、人口は43,490人、65歳以上の割合が約39.6パーセント、75歳以上は24.0パーセントだ。約4割が高齢者となっている。
会長	高齢化率のグラフを追加すると、誤解がないのではないかと。言及しないと誤解を招く。高齢化率は、40年、45年後には多分5割近くまで行く。ただ、労働力が足りなくなるという難点はあるが、病床数や施設数は実数に影響されるので、高松市と丸亀市以外はピークアウトする。「実数は減少に転じるが、高齢化率はずっと上がる」というような文章を加えると、誤解はなくなると思う。
(株)ぎょうせい 担当者	2065年は、50.7パーセントになります。
会長	それはすごい。人口の半分以上が年金受給者になっている。年金受給者は消費活動が少し落ち、労働人口、生産人口が減るので、地元

委員	のスーパーマーケットがやっていけるかななどの影響がある。どういう社会になるのか。離島や中山間地域でなく、高松市に近い、電車が走っているような場所で高齢者が半分以上になる社会はどのような状態かは分からない。 高齢者でも働く人は維持されるので、税収等の面ではそんなに下がらず、全然働かない人は減ると思う。75歳、80歳くらいまでは、何らかの形で給料をもらおうと思う。ただ、富裕層と貧困層の差が大きくなることは視野に入れておかないといけない。今、子育て世代に貧困の人が多いことも、福祉を含めて計画の中で考えていかないといけないのではないかという気がする。
会長	65歳を超えて働いている人は増えており、昔と比べて元気だ。例えば中小企業も70歳くらいは働けるようにしたらいいのではないかという話も出ている。 ただ、年金をもらいながら働く人は、年金プラス働いた分で生活できるが、年金を払うための社会保険料を現役から取ると、現役世代の困窮が進んでしまうという問題は、逆ピラミッドになっているので厳しい。社会保険料を少し下げるなどといった対策が別途必要だ。ここ10年くらい政治的な問題で、かなり論争になると思う。 そうすると、75歳以上の人口比率も書いた方がよいとなる。後期高齢者は普通働いていないので、75歳以上を出すと語弊があるのではないかなど、きりが無い。「実数は頭打ちで減っていく」という文章がミスリードするなら、書きぶりは事務局と話せばよいが、どう書いても、社会の変容を短い文章で捉えるのは難しい。社会は変化していくだろうが、それほど悲観的な社会ではないのではないか、元気な高齢者は働いてくれるのではないか。働いてくれれば、少しは社会保険料を払ってくれるかもしれないというのは、そうかもしれない。
委員	高齢者ばかりになり、次の世代は別のところに住んでいる。人口は増えないのに、なぜ建売住宅はたくさんできるのか。そこにも問題が一つあるように思う。都市近郊にできると、そちらに行こうかとなり、都市近郊は若くなり、こちらは高齢者ばかりになる。
会長	今、住宅は高くなっている。まち・ひと・しごと創成総合戦略の方で、若い世代の転入者が減っていることと住宅着工件数が減っていることは、転入者が減ったから家が建たなくなっただけと普通は考えるが、銀行の支店長からは「逆ではないか。住宅がかなり高くなり、価格帯によっては新型コロナ前より3割高いので、昔と同じ年齢層では家は買えなくなっただけ」という話が出た。昔は20代後半から30代前半で田舎の安い土地に家を建てていたが、上物が高いので建てられない。そうすると、高松市内の賃貸住宅にいる。さらに悪

	いことに、そういう人たちが戻ってくれるかどうかわからない。高松の建売住宅を買ってしまう可能性もある。どこがきっかけかは難しいが、住宅に関してはあるだろう。
委員	高齢者がずっと元気でいればいいが、病気になれば施設に行ったりする。
会長	同居せずとも、近くに住んでいれば、毎日見に行くことができる。高松市とさぬき市で離れていると、毎日は難しい。居住地によって介護需要もあるかもしれない。ただ、政策的な対応が難しそうな案件だ。住宅価格の高騰は、市ではどうしようもない。
委員	難しい。空き家対策で移住者を増やす方がまだよい。
委員	出て行った人に帰ってもらうのは難しい話で、さぬき市に魅力があって住みたいという人をどうやって増やしていくかを考えていかないといけないと思う。
会長	既存の住宅のフルリフォームだったら補助金も付くので、新築住宅よりかなり安くなる。人口が減っていくのなら、比較的条件の良い空き家も増えていくのではないか。リフォームした空き家に住みませんかと、人を入れた方がずっと生産的ではないか。高松市で新築住宅を買いたい人を止めるのは難しいが、新たな需要を開拓することはできるかもというのは、ありそうな感じがする。
委員	アンケート結果にもあるように、産業をつくる、企業誘致をすることも含めて、魅力あるさぬき市をアピールしていかないと人は来ないことを、皆が情報として持つておかないといけないと思う。
委員	空き家に入ってくる人で多いのは、農業関係、移住者だ。
会長	農地が付いていることも多い。農地付きの住宅を大規模リフォームだと、すぐに農業を始められる。
委員	農地法が変わって下限面積要件がなくなり、1反でも買える。
会長	果樹等の反収益の高いものであれば、4反でもいいのか。
委員	そういうこともアピールしたら、農業に関心のある人や自給自足を楽しみたい人が来るのではないか。移住している人は何人かいる。
委員	4ページ【2】計画の策定体制を見ると、このさぬき市総合計画審議会（以下「審議会」）の立ち位置は、市長や政策審議会、事務局か

事務局	ら諮問が出され、それについて答申をするとなっている。諮問案はいつ頃出てくる予定か。
事務局	令和7年度の第1回会議で、市長から諮問書が提出されました。
委員	各課の問題点について、こうやっていくというのが諮問ではないのか。
事務局	市長から総合計画についてご審議くださいということで、諮問書を提出しています。細かいものではないです。
委員	諮問の意見があって、それに対し「こういう方向でどうか」というのが答申ではなかったか。
事務局	この審議会で、計画の内容を審議してくださいという依頼です。
委員	全体を出して答申をしていくというイメージなのか。では、その後、各課が行う施策に対する諮問はないのか。
事務局	総合計画なので、大きい基本的な計画をご審議いただいているところです。さぬき市の今後10年間の方向性や目標に向かって行う道順が間違っていないかなどです。例えば、民生委員の現場のご意見をこの審議会でお出しいただき、総合計画の方向性を切り替えていくような会にできればよいと考えています。 行政からの課題に基づく取組の方向性等の案が出てきて、それを審議できないのかというのが、委員のご意見だと思います。 これまでの市民アンケートや中学生アンケート、団体アンケート等から課題を抽出します。一方で、現在の計画があるので、現在の計画に対する行政内部での評価も踏まえて、行政としての主要な方向性や課題に対する取組の案を作ります。今年度中に審議会を5回開催する予定にしているので、最初の段階ではたたき台のようなもの、次はもう少し修正した案、といった形でお示しし、委員の方々のご意見をお聞きする形で案を作っていきます。最終的には、審議会からこういった形でどうですかと、諮問に対する答申をしていただきます。そういう形で総合計画を作ることになるので、行政が審議会に丸投げでお願いしますというようなものではなく、行政がその責任において案をお示しして、そのご意見をお聞きしていきます。
委員	その案が諮問ではないのか。
事務局	諮問は、総合計画案について、ご審議をお願いしますという1枚のものですが、実質は、案をお示ししながら協議していくこと全体が諮問に対する答申という形になっていくと思います。

会長	2 ページにある 3 層の構成のうち、基本構想と基本計画が冊子となり、実施計画は冊子に入らない。ただ、現状と課題、おおむねこういうことがやりたいということまでは載っていて、その案を審議の過程で修正や追加等のやり取りを続け、最終的に基本計画までは冊子になる。 今年度、審議会が開催される回数が多い。全体で何回を予定しているのか。
事務局	5 回です。
会長	こういう審議会としては、開催される数が多い方なので、中身のやり取りは以後行われると思う。 今回の会議では、基本構想序章案についてだったが、今後も章ごとにやっていく予定か。
事務局	今回は、骨子案をお示しする予定です。
委員	25 ページについて、企業誘致の推進は何課がするのかという情報がほしい。例えば、基本目標 1 の商工業の振興と産学官の連携強化の担当部署はここといったものがあつた方が話はしやすいと思う。いろいろな課があるため、どこに答申するのかを整理したいので、できればほしい。
会長	たしかに担当課が書かれていないが、議論の途中では、担当課についての情報提供があつた方がよい。
委員	ここまで話すのは、計画期間を短縮した危機管理を皆に持ってほしいという願いがあるからだ。12 年だったものを 10 年にしてまでも、環境の変化に対応していくには、担当課も危機管理を持ち、それを計画に入れてよい行政をすることを考えていかないといけない時期になっていると思う。今までと同じではだめだと、いつも話している。発想の転換をして、さぬき市のよいところの中で、できることをきちんと考えていかないといけない。従来と同じものを出されてもだめだと思っている。せっかくいろいろな専門の委員が来ているので、きちんと情報共有するためにも、政策を考える担当課長もこの会議に参加して、一緒に情報を共有するというのがあってもよいという気がする。
(株) ぎょうせい 担当者	さぬき市のよいところやできることについては、ワークショップでも、市民の皆様からお聞きしたいと思います。資料にもあるように、各グループに市の職員も参加されます。市民の生の声を実際に聞いて実感していただく場としてワークショップを設定しているので、

	こういったことも踏まえたいと思います。 また、現行計画に書かれていることについて、過去5年間どのようなことを実施されたかという振り返りを各原課様にお願いします。実施していく中でどのような問題点や課題があり、それらを踏まえて今後どのような方向性でこの事業を推進していこうとお考えですか、というものです。その「お考えですか」のところに、ワークショップや市民アンケート等でのご意見を踏まえて考えてくださいというお願いをこれから行います。今月から来月にかけて、事務局から各原課様にその書類が送られると思います。それらを取りまとめて、総合計画の骨子案にしていきたいと考えています。
会長	原則、原課のものは書面で集めて、情報が提供される。それに疑義、質問があるようなら、原課に戻して回答案を作ってもらってもかまわないと思うが、担当課長が出席となると、難しいところがある。どうしても引っかかるなら、重要な課だけ出席してもらうのは、スケジュール次第だが可能だと思う。
委員	忙しいかもしれないが、午後5時以降でもよいから、さぬき市のことを考えてもらえる場がほしい。間接的にとなると、ちゃんと伝わるか危惧してしまう。お願いとして、あってもいいのではないか。
会長	審議会で出てきたいいくつかの絞られた論点について、原課の課長に出席してもらってもいいかもしれない。気持ちはよく分かる。ほかにあれば伺いたい。 なければ、議事（4）今後の策定スケジュールについて、事務局から説明願いたい。
事務局 （株）ぎょうせい 担当者	<資料4説明>
会長	説明にもあったように、基本構想は次回できれば固めたい、具体的な基本計画については、3回目以降の11月、1月で集中的に行いたいということだ。今回は、8月25日火曜日午後を予定しているそうで、後で案内がある。 意見や質問等があれば、伺いたい。 なければ、これで議事がすべて終了した。事務局から何か連絡があるか。
事務局	次回の会議について
会長	閉会（11：15）

